

出題分析と現場の声から見えてきた

「求められる力」



ベネッセコーポレーション
進研模試編集責任者
松永和喜 かずき

今回の試行調査の問題は、前回の

試行調査における出題コンセプトを強く継承したものとなりました。すべての教科・科目で「日常生活や社会の事象」を意識した素材が取り上げられるとともに、グループワークの場面が扱われるなど、探究を意識

した出題もありました。また、文章

だけではなく、グラフや図表など、多様で複数の資料が扱われました。以上のような特徴を持つ問題が、大

学入試共通テスト本番でも出題されると予測されます。

今回の試行調査の問題を、ご覧になった高校現場の先生方からは、「複数」の「多様」で「大量」の情報に基づいて問題を解くことに、生徒が苦勞していたというお話を多く伺いました。また、今回の試行調査では、大

学入試センターはあらかじめマーク式問題の平均得点率（平均正答率）を5割程度に想定していましたが、数学2科目と理科3科目（物理・生物・地学）は、5割程度を下回る結果となりました。それを受けて大

試行調査の出題の特徴のまとめ

- 「社会とのかかわり」や「探究活動」を意識した問題設定
- 複数の資料を読み取り、情報を統合・考察する力の重視（現行のセンター試験よりも、問題の文章量や資料が増加）
- 記述式問題や新形式のマーク式問題が出題されるなど、解答形式が多様化

高校現場の先生方の声

- 生徒は表や図の入った文章に慣れていないので、解くのが難しかったと思われる。（国語科）
- すべての問題において文章量が多かったため、体力的にしんどい、疲れたという声が生徒から多く上がった。（国語科）
- これまで見たことのないシチュエーション、図表から問題が出た。（地理歴史科）
- 見たことのないグラフや表が多く出てきた。読解力がないと解けない問題が多数見られた。（地理歴史科）
- 問題文が長く、解き始めるまでに時間がかかった生徒が多かった。（数学科）
- 今までの問題と比べると、純粋な数学の力以外にも、読解力などが必要になった。（数学科）
- 教科書や演習で直接は学んでいなくても、初見の単語やテーマ設定を見て、「この分野の問題だな」とピンとくる力が必要。（理科）
- 速読ではなく、ピンポイントで大事な部分を抜き出すことが求められる、情報検索型の問題が多かった。（英語科）

複数の、多様で、大量な
情報の中から必要なものを見抜く「読解力」が
求められた

次ページでは、4教科の先生方が、「読解力」をテーマに語り合います